



# 平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月12日

上場会社名 株式会社 アイ・テック

上場取引所 東

コード番号 9964 URL <http://www.itec-c.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大畑 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長兼経理部長 (氏名) 伏見 好史

TEL 054-337-2001

四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日

配当支払開始予定日

平成30年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	43,316	23.9	2,011	△3.9	2,389	5.2	1,582	0.8
30年3月期第2四半期	34,971	2.5	2,094	10.1	2,272	380.4	1,569	290.5

(注)包括利益 31年3月期第2四半期 1,537百万円 (△7.2%) 30年3月期第2四半期 1,655百万円 (266.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	145.31	144.37
30年3月期第2四半期	138.50	137.85

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	71,392	30,207	41.9	2,745.17
30年3月期	65,042	29,060	44.3	2,647.98

(参考)自己資本 31年3月期第2四半期 29,930百万円 30年3月期 28,811百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
31年3月期	—	20.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,600	10.7	4,100	1.6	4,300	3.5	2,600	△6.1	238.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	12,215,132 株	30年3月期	12,215,132 株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	1,311,998 株	30年3月期	883,238 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	10,887,150 株	30年3月期2Q	11,331,894 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は持ち直し、生産・輸出・設備投資にも持ち直しが見られ、企業収益も改善しており、緩やかな回復基調が続いております。また、海外経済につきましても米国の保護主義的な通商政策、金融資本市場の変動、地政学的リスク等はあるものの、総じて堅調に推移いたしました。

当鉄鋼流通加工業界におきましては、国内鉄鋼メーカーは製造コストや物流コストの増加を理由に製品価格の値上げを強力に推し進めており、一昨年秋を底に鋼材市況は回復基調となって参りましたが、メーカー主導による市況回復の為、流通スプレッドはあまり改善しておらず、また、物流コストは益々増加しており引き続きの厳しい状況となっております。

このような環境下にありまして当社グループは、首都圏においては、オリンピック関連投資は一巡したものの、再開発案件等は着実に具体化しており工事請負・鋼材販売の両面において積極的な営業活動を展開しております。また、平成28年2月に福島支店を開設し、東北支店・青森営業所と共に東北地区への拡販を進めて参りましたが、その供給拠点として福島県相馬市に工場の建設を決定し、平成30年6月に相馬支店・工場として開設いたしました。在庫の出入庫やH形鋼・コラムの加工等計画どおりに進捗しております。なお、その他の地域においても、地道な営業活動により販売エリアの拡大・シェアアップを図っております。

このような状況から、鋼材の販売・加工事業につきましては、販売量は前年同期を上回った事に加え、市況回復から販売金額は前年同期を大幅に上回る結果となりました。なお、鉄骨工事請負事業は、首都圏を中心に民間設備投資は持ち直しの動きが見られ、他社との競争など厳しさはあるものの、受注活動は堅調に推移しております。工事売上額につきましては、工事完成基準適用の中小物件の売上高は減少したものの、工事進行基準適用の大型物件の売上高は増加となりました。これらの結果から当第2四半期連結累計期間の売上高は43,316百万円（前年同期比23.9%増）となりました。

収益面におきましては、鋼材の販売・加工事業は、鋼材市況は回復傾向が続いているものの、メーカーからの仕入価格も着実に値上がりしており、在庫簿価も上昇し、物流コストも増加していることから、収益確保は厳しくなっております。鉄骨工事請負事業は、売上高は前年同期を上回ったものの、設計変更や工期遅延等から実行予算を上回る原価発生 の物件なども散見されました。これらの結果から当第2四半期連結累計期間の営業利益は2,011百万円（前年同期比3.9%減）となりました。また、営業外損益につきましては、為替差益88百万円、デリバティブ評価益228百万円の発生等により経常利益は2,389百万円（前年同期比5.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,582百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 鋼材の販売・加工事業

鋼材の販売・加工事業は、建築関連の民間設備投資は緩やかに増加しており、首都圏では再開発案件等が活況を呈しておりますが、一方、首都圏以外は盛り上がりには欠ける状況であり地域間の格差が広がりつつあります。また、新国立競技場等のオリンピック関連施設は建設のピークは過ぎたものの、その他の関連投資には波及効果が現れており、鋼材の荷動きはようやく活発化して参りました。このような状況から、販売量は前年同期を上回り、市況回復の追い風もあり販売金額は前年同期を大幅に上回る結果となりました。

品種別に見ますと、当社主力のH形鋼は従来からの建築向けが堅調に推移した事に加え、土木向けの出荷も好調でした。また、溝形鋼、カクパイプ等のその他条鋼の販売も堅調に推移した結果、条鋼類は、販売量・販売金額共に前年同期を大きく上回る結果となりました。鋼板類は、建築向けの切板等は堅調に推移したものの、土木向けの敷き板は大幅な減少となりました。鋼管類は、コラム加工設備のリプレースや増強等からロール成形コラム及びプレス成形コラム共に好調に推移した事から、販売量・販売金額共に前年同期を大幅に上りました。以上の結果から、売上高は34,847百万円（前年同期比23.1%増）、営業利益は流通スプレッドの伸び悩みや物流コストの増加等から1,721百万円（前年同期比12.1%増）となりました。

② 鉄骨工事請負事業

鉄骨工事請負事業は、民間設備投資は回復の兆しを見せており、首都圏を中心とした再開発や大型物件は堅調に推移しておりますが、地方の中小物件については厳しく、まだら模様となっております。受注状況につきましては、受注件数・受注金額共に前年同期並みとなっております。しかしながら、収益性については鋼材価格の上昇等が原価の増加につながる事から、徐々に厳しさを増しております。売上高につきましては、工事完成基準適用の中小物件は減少となったものの、工事進行基準適用の大型物件は既存物件の進捗に加え、新規着工の物件も徐々に進捗しており、売上高は8,295百万円（前年同期比27.0%増）となりました。また、収益につきましては、鉄骨加工単価は安定的に推移しており、引き続き工事管理部門の強化や鉄骨加工子会社の原価低減は行っているものの、設計変更や工期遅延等から一部工事においてコストアップとなった事から営業利益は569百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

③ その他

その他は、運送業及び倉庫業であり、運送業については全国的なトラック不足からグループ外からの輸送依頼が増加した事に加え、運賃も上昇している為、売上高は前年同期を大幅に上回る結果となりました。また、倉庫業についても堅調に推移しており売上高は前年同期を上回る結果となりました。これらにより売上高は173百万円（前年同期比42.8%増）、営業利益は73百万円（前年同期比111.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は71,392百万円（前連結会計年度末は65,042百万円）となり、6,349百万円増加しました。主な要因は、売上高増加に伴う受取手形及び売掛金の増加4,351百万円、相馬支店開設等に伴う商品及び製品の増加1,103百万円等がありましたが、現金及び預金の減少1,892百万円等により一部相殺されたものであります。なお、相馬支店の開設に伴い建物及び構築物が3,041百万円増加、機械装置及び運搬具が2,096百万円増加し建設仮勘定が3,174百万円減少しております。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は41,184百万円（前連結会計年度末は35,982百万円）となり、5,202百万円増加しました。主な要因は、相馬支店の初期在庫等による仕入の増加に伴う買掛金の増加1,919百万円、短期借入金の増加3,900百万円等がありましたが、未払法人税等の減少209百万円、未成工事受入金の減少209百万円、長期借入金の減少280百万円等により一部相殺されたものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は30,207百万円（前連結会計年度末は29,060百万円）となり、1,147百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加1,146百万円及びその他有価証券評価差額金の減少69百万円等であります。この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は41.9%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,894百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には2,456百万円（前年同期比68.3%減）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は2,213百万円（前年同期比242.1%増）となりました。これは主に、売上高の増加に伴う売上債権の増加額4,341百万円、相馬支店開設等によるたな卸資産の増加額1,436百万円、デリバティブ評価益228百万円及び法人税等の支払額910百万円等がありましたが、税金等調整前四半期純利益2,389百万円及び仕入債務の増加額1,919百万円等により一部相殺されたものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,902百万円（前年同期比60.0%増）となりました。これは主に、相馬支店開設に伴う有形固定資産の取得による支出2,830百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は3,164百万円（前年同期比170.5%増）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額3,900百万円及び配当金の支払額433百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年5月10日の平成30年3月期決算短信にて公表いたしました通期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成30年11月6日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,397,654	3,505,411
受取手形及び売掛金	23,993,998	28,345,227
商品及び製品	7,828,125	8,932,010
原材料及び貯蔵品	2,684,109	2,712,974
未成工事支出金	2,308,620	2,612,156
その他	316,725	769,125
貸倒引当金	△47,817	△64,817
流動資産合計	42,481,417	46,812,088
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,575,874	16,803,586
減価償却累計額	△8,390,680	△8,576,972
建物及び構築物 (純額)	5,185,193	8,226,614
機械装置及び運搬具	6,574,906	8,966,189
減価償却累計額	△4,973,799	△5,268,881
機械装置及び運搬具 (純額)	1,601,106	3,697,307
土地	10,712,058	10,712,058
リース資産	127,119	33,069
減価償却累計額	△95,174	△24,204
リース資産 (純額)	31,944	8,864
建設仮勘定	3,174,608	—
その他	388,989	449,829
減価償却累計額	△350,785	△359,016
その他 (純額)	38,204	90,812
有形固定資産合計	20,743,117	22,735,658
無形固定資産	105,016	119,930
投資その他の資産		
投資有価証券	786,175	692,521
関係会社株式	1,000	1,000
関係会社出資金	38,375	38,375
保険積立金	615,271	648,822
繰延税金資産	174,314	146,908
その他	142,777	238,896
貸倒引当金	△44,982	△41,932
投資その他の資産合計	1,712,931	1,724,591
固定資産合計	22,561,064	24,580,180
資産合計	65,042,482	71,392,268

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,156,469	14,075,571
短期借入金	13,800,000	17,700,000
1年内返済予定の長期借入金	561,600	561,600
リース債務	32,062	30,020
未払法人税等	964,048	754,744
未払消費税等	205,911	115,989
賞与引当金	366,900	398,800
役員賞与引当金	40,774	57,360
未成工事受入金	1,296,144	1,087,063
その他	1,000,368	1,061,814
流動負債合計	30,424,279	35,842,963
固定負債		
長期借入金	2,540,800	2,260,000
リース債務	39,225	40,685
繰延税金負債	720,986	763,371
役員退職慰労引当金	139,028	132,966
退職給付に係る負債	1,478,841	1,508,746
その他	639,012	636,093
固定負債合計	5,557,893	5,341,864
負債合計	35,982,173	41,184,828
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,948,829	3,948,829
資本剰余金	4,116,979	4,121,679
利益剰余金	22,360,635	23,507,431
自己株式	△1,684,246	△1,655,849
株主資本合計	28,742,197	29,922,090
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	180,208	110,577
繰延ヘッジ損益	△504	—
退職給付に係る調整累計額	△110,199	△101,753
その他の包括利益累計額合計	69,504	8,823
新株予約権	28,611	40,451
非支配株主持分	219,995	236,074
純資産合計	29,060,309	30,207,440
負債純資産合計	65,042,482	71,392,268

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	34,971,250	43,316,243
売上原価	29,426,020	37,407,479
売上総利益	5,545,229	5,908,764
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	850,847	980,585
貸倒引当金繰入額	—	13,950
給料手当及び賞与	941,171	983,522
賞与引当金繰入額	204,417	228,907
役員賞与引当金繰入額	40,774	55,860
退職給付費用	74,428	61,606
役員退職慰労引当金繰入額	4,866	3,837
減価償却費	186,787	251,214
その他	1,147,824	1,317,299
販売費及び一般管理費合計	3,451,117	3,896,783
営業利益	2,094,112	2,011,980
営業外収益		
受取利息	4,856	2,893
受取配当金	8,077	8,326
仕入割引	12,370	13,066
受取賃貸料	29,329	38,756
為替差益	96,607	88,902
デリバティブ評価益	24,774	228,932
貸倒引当金戻入額	2,461	—
その他	55,612	35,008
営業外収益合計	234,090	415,886
営業外費用		
支払利息	25,188	26,495
固定資産除却損	18,570	158
その他	11,922	11,486
営業外費用合計	55,681	38,140
経常利益	2,272,521	2,389,727
特別利益		
補助金収入	360	—
特別利益合計	360	—
税金等調整前四半期純利益	2,272,881	2,389,727
法人税、住民税及び事業税	729,480	701,801
法人税等調整額	△44,434	89,825
法人税等合計	685,045	791,626
四半期純利益	1,587,835	1,598,100
非支配株主に帰属する四半期純利益	18,321	16,078
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,569,513	1,582,021

## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,587,835	1,598,100
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57,728	△69,631
繰延ヘッジ損益	1,832	504
退職給付に係る調整額	8,523	8,445
その他の包括利益合計	68,083	△60,681
四半期包括利益	1,655,919	1,537,419
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,637,597	1,521,340
非支配株主に係る四半期包括利益	18,321	16,078

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,272,881	2,389,727
減価償却費	393,097	560,169
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△120,995	13,950
賞与引当金の増減額 (△は減少)	40,700	31,900
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	9,210	16,586
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,878	△6,062
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	20,385	42,405
受取利息及び受取配当金	△12,934	△11,220
支払利息	25,188	26,495
為替差損益 (△は益)	△79,193	△57,308
有形固定資産売却損益 (△は益)	△3,207	△3,568
有形固定資産除却損	18,570	158
デリバティブ評価損益 (△は益)	△24,774	△228,932
補助金収入	△360	—
保険解約損益 (△は益)	—	△2,175
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,238,109	△4,341,767
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△516,087	△1,436,285
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	488,947	△285,873
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,242,841	1,919,101
未払消費税等の増減額 (△は減少)	25,643	146,755
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△236,741	△209,080
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	14,797	117,980
その他	△29,956	27,520
小計	294,781	△1,289,524
利息及び配当金の受取額	12,987	11,225
利息の支払額	△25,438	△27,387
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△956,144	△910,443
補助金の受取額	360	—
保険金の受取額	26,513	3,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	△646,940	△2,213,102

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△10,380	△49,581
定期預金の払戻による収入	8,580	47,781
有形固定資産の取得による支出	△1,777,642	△2,830,609
有形固定資産の売却による収入	19,605	5,718
投資有価証券の取得による支出	△716	△722
固定資産の除却による支出	△14,055	—
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	△770	30
長期貸付金の回収による収入	293	299
保険積立金の積立による支出	△28,808	△34,147
その他	△9,992	△41,700
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,813,885	△2,902,931
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	300,000	3,900,000
長期借入れによる収入	1,400,000	—
長期借入金の返済による支出	△128,600	△280,800
配当金の支払額	△373,867	△433,755
リース債務の返済による支出	△27,712	△20,762
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,169,820	3,164,681
現金及び現金同等物に係る換算差額	79,193	57,308
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,211,812	△1,894,043
現金及び現金同等物の期首残高	8,952,311	4,350,473
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,740,498	2,456,429

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼材の販売 ・加工事業	鉄骨工事 請負事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	28,315,430	6,534,438	34,849,868	121,382	34,971,250	—	34,971,250
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,555,020	99,661	1,654,682	1,159,721	2,814,403	△2,814,403	—
計	29,870,450	6,634,099	36,504,550	1,281,104	37,785,654	△2,814,403	34,971,250
セグメント利益	1,535,456	826,516	2,361,972	34,870	2,396,843	△302,730	2,094,112

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、運送事業及び倉庫事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△302,730千円には、セグメント間取引消去32,887千円、全社費用△335,617千円が含まれております。全社費用は、主に当社の本社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼材の販売 ・加工事業	鉄骨工事 請負事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	34,847,065	8,295,817	43,142,882	173,361	43,316,243	—	43,316,243
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,986,033	53,808	2,039,842	1,317,091	3,356,933	△3,356,993	—
計	36,833,099	8,349,625	45,182,724	1,490,453	46,673,177	△3,356,933	43,316,243
セグメント利益	1,721,048	569,847	2,290,895	73,628	2,364,524	△352,543	2,011,980

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、運送事業及び倉庫事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△352,543千円には、セグメント間取引消去79,675千円、全社費用△432,218千円が含まれております。全社費用は、主に当社の本社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。